

地域創造学環のフィールドワークってどんな事を学ぶの？
学内地域連携拠点フィールドワークの学生が各フィールドワークを巡ったレポート

フィールドワーク紀行

In 多世代の居場所づくりフィールド



Vol.2

多世代の居場所づくり フィールド



世代を超えた交流のための 居場所づくりを目指して

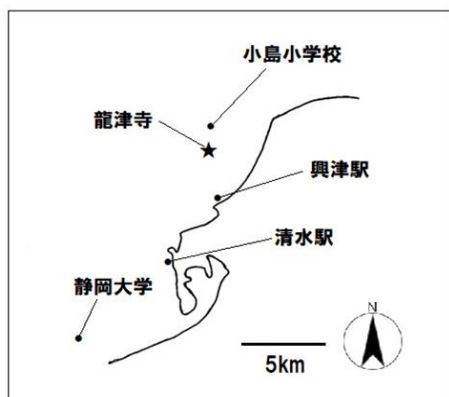
多世代の居場所づくりフィールドは、子ども達からお年寄りまで、老若男女問わず、世代を超えた交流を可能とする居場所をつくることを目的に活動しています。現在は、静岡市清水区の小島地区にある龍津寺を主な連携先のひとつとして、地域内で活動の輪を広げています。

おじま

小島地区とは

小島地区は、静岡市清水区の中中部、興津駅から北へ約四キロの距離にあります。江戸時代には小島藩の藩庁（小島陣屋）が置かれ、甲府と結ぶ身延道の往来で栄えました。興津川の清流、そしてお茶やみかん畑に囲まれた自然豊かな地域です。

小島地区もまた高齢化、少子化の波が押し寄せており、多世代の居場所づ



くりが地域が取り組むべき課題の一つです。しかし、地元の子どもの多くが「この地域が好き！」と答えるなど、地元住民に愛された地域でもあります。

りょうしんじ

龍津寺とは

多世代の居場所づくりフィールドの学生たちが連携先のひとつとする龍津寺は、一六世紀中頃に建設された臨済宗妙心寺派の禅寺です。境内には六メートルを超える小島観音が安置されており、地域の人々の暮らしを見守っています。

龍津寺では、「一人一人が幸せになるコト」「その一人一人の幸せを分かち合うコト」を目的に、「分福」をキーワードに様々な活動を行っています。二〇〇九年から毎月二回「子ども寺子屋」を開催し、小学生たちに学び舎を提供しています。二〇一七年からは「おじま分福食堂」という共生食堂

を開始するなど、地域の人々の居場所づくりのための実践や様々な人々が関わる場の賑わいの創出に取り組んでいます。こうした活動が認められ、二〇二〇年には静岡県社会福祉協議会が主催する「ふじのくに地域共生大賞」を受賞しています。



防災〇×クイズ in 龍津寺 取材レポ！！

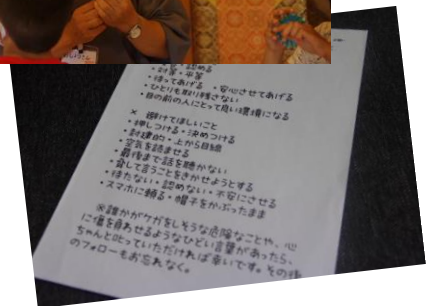
詳しく見ていこう！レッツゴ～！



2021年6月26日に開催された多世代の居場所づくりフィールド主催のイベントである「防災〇×クイズin龍津寺」の様をお伝えします。このイベントは地域創造学環の環境防災分野の学生が主体となって小島地区の防災意識を高めることを目標に実施されたものです。今回は龍津寺の居場所づくりの取り組みである「子ども寺子屋」の様子とともにレポートします。

▶子ども寺子屋開始！ (8:30)

30名ほどの小学生が参加し、子ども寺子屋が始まりました。初めに龍津寺の住職である勝野さんによる講話が行われました。お話は論語と憲法についてで、子ども達には難しい内容であるにもかかわらず勝野さんの話に真剣に聞き入っている姿が印象的でした。



▶勉強タイム (9:00～9:30)

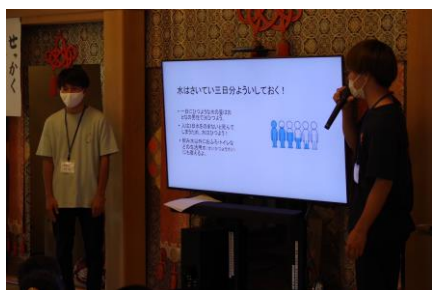
勝野さんの話の後は子ども達各自で教材を持ち寄って勉強タイム。土曜の朝なので学校の宿題をやっている子が多いが、学習内容はそれぞれ！集中して勉強に取り組んだり、学生ボランティアの方々とお話をしたりと、楽しい時間を過ごしていました。



寺子屋に来ていた子が中学生になって教える側になっている関係が素敵!!



▶防災〇×クイズ (11:50～13:25)



いよいよだ～!

休憩としてお茶タイムや遊びタイムを挟んだのち、いよいよ多世代の居場所づくりフィールド主催の「防災〇×クイズ」が始まりました。クイズは〇×2択の形式で、子ども達にも分かりやすいようにカラフルな図やイラストを多く使い、単に答えを知るだけでなく正解の理由など解説も充実しており大人でも参考になる内容でした。

【クイズの一例】

- ・ 寝室に高さのある家具を設置しても良いか？

▶終了 (13:25)

お土産として東北大学から提供された防災手ぬぐいを配布して終了しました。家に帰って家族の人と防災について話し合うように促し、防災教育の徹底をお願いしていました。



【参加者の声】

- ・ 自宅でハザードマップの説明をするのは難しいので、こういう場で災害について学べるのはとても良いことだと思いました。
- ・ 楽しかったです。実際の災害はもっと難しいことが起こるので、もっと勉強したいと思うようになりました。
- ・ 土曜日は子ども達の居場所がなくなるので、寺子屋のような取り組みはとてもありがたいです。



▶小島小学校との話し合い

今後の防災教育について小島小学校との話し合いがイベント後に実施されました。地域創造学環環境防災分野の学生から防災教育についての提案が出され、小島小学校と共に防災教育の企画案について考えました。



Locals & Students Voices

今回のイベントの開催に関わった地域の方や、フィールドの学生たちにインタビューを行い、生の声をきいてみました。



地域の声

大学生が子ども達と関わることによって、子ども達の興味を広げてあげることができると思います。今回のイベントでは、子ども達が夢中でクイズに参加している姿を見ることができ嬉しかったです。フィールドワークによって大学生が地域に関わることで、世代を超えたつながりをつくることのできると思っています。



学生の声

私たちは、子ども達からお年寄りまで、老若男女問わず交流できる「居場所」を作ることが軸として活動しています。今回のイベントを通じて、子ども達が主体的に防災に対する意識を持ち、継続して学習してもらっていること、共

だからこそ、今後も一緒に連携を継続していきたいです。

編集後記

イベントで行った防災教育の経験を活かし、小学校と連携して継続的に地域防災と関わっていることが印象に残りました。(近藤)

※

防災〇×クイズでのお土産の防災手ぬぐいが家庭での防災についての会話のきっかけとなり、地域全体の防災意識の向上につながる感じました。(古瀬)



助の目線を持ってもらえたことは、私たちの中でも嬉しいと感じています。

静岡大学 地域創造学環 フィールドワーク紀行

令和5（2023）年 3月31日発行

編集発行 静岡大学 地域創造学環 学内連携地域拠点フィールド

